

# 研究部だより

秋田県立栗田支援学校

研究部 第2号

令和6年7月1日発行

先日は、高等部総合サービス科、小学部の全校授業研究会に向けた事前検討会へのご協力ありがとうございました。検討会では、多数のご意見をいただきました。検討会でいただいた助言内容の一部を紹介します。

## ～高等部総合サービス科 流通・サービス科～

題材名	高等部総合サービス科 流通・サービス科 第23回秋田県障害者技能競技大会に向けて～事務所清掃～
題材について	<ul style="list-style-type: none"><li>本学科では卒業後の進路を見据え、専門3教科（家政、流通・サービス、福祉）の学習を学年の段階に応じて展開している。</li><li>技能競技大会は、障害のある方々が日ごろ培った技能を互いに競い合い、職業能力の向上を図ることなどを目的としている。</li><li>本題材は、大会に関わる事務所清掃の学習を通して、<u>清掃の基礎的な知識や技術を習得し、自分や周囲の安全、衛生に気を付け、仕上りの美しさや使う人の気持ちを考えて清掃する姿を目指したい。</u>また、<u>学校生活全般を通して、互いのよさを認め合い、自ら考えて行動し、自分の思いや考えを相手に伝える姿を目指したい。</u></li></ul>

### <協議内容>

- 単元構成や学習活動の工夫について（自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントの活用を中心に）
- 生徒の気づきや学びを表現するためにできる手立てや環境設定の工夫について

### <グループからのアイデア>

- 清掃の仕上がりや所作を客観的に評価できるよう、視覚的に確認できる手立てがあるとよいのではないか。
- 清掃において求められる態度（きびきび感）を具体的に示してはどうか。自分たちでどのような態度で清掃するとよいか話し合う機会も大切ではないか。
- 競技の様子を仲間同士で見合い、学び合うような状況づくりも有効ではないか。
- 自らの気づきや改善したところなどを表現する機会を大切にしてはどうか。



### <助言>

#### ー授業改善アドバイザー、自立活動アドバイザーよりー

- 清掃の採点基準を明確にし、初級、中級、上級など、段階的に難易度を示してはどうか。
- 客観的な評価を基に自己評価との差異を確認すること。そしてアドバイスを聞く力を育てることが大切。
- できているところは認め、自信をもつことができるようなアプローチも大切に。
- 専門教科では指導項目が決まっている。決められた項目をどのように工夫して生徒を育てるかが大切。
- 障害特性への配慮（メタ認知やボディイメージの難しさ）を理解した上での手立てを工夫してほしい。
- 指導案は、生徒観、題材観、指導観の流れが見えるよう、改めて意識して作成してほしい。

### <助言を受けて>

- 「きびきび感」を生徒同士で話し合い、清掃の際にどのように行動したらよいかイメージを共有する。
- 清掃の様子を動画撮影し、評価、改善する機会を繰り返し設ける。
- 様々な人から評価をもらう機会を設定する。（外部専門家、他学部職員など） など

## ～小学部5年 生活単元学習～

<p>単元名</p>	<p>Go!5!キッチン戦隊クックリン!</p>
<p>題材について</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の経験から、本学年の児童は調理への関心が高い。今年度はじゃがいも、とうもろこしの苗を畑に植え、その収穫を楽しみに世話をしている。</li> <li>・調理は、工程を簡略化するなど実態に合わせて学習活動を設定でき、児童同士が役割分担をして進めることができる。また野菜を育てたり買い物をしたりという活動も合わせて行うことで、生活経験の拡充が期待できる。</li> <li>・調理の最後には、自分たちで作った料理を身近な友達や教師、保護者にふるまう機会をもつことで、相手に喜んでもらったり感謝されたりする経験を積み、相手のためによりよいものを作ろうとする気持ちが育つと考え、設定した。</li> </ul>

### <協議内容>

- ・単元構成や学習活動の工夫について
- ・児童の「やりたい」という気持ちを喚起したり、「できた」という達成感を味わったりすることができる手立てについて



### <グループからのアイデア>

- ・児童の好きなテレビ番組を模した単元名なので、それを生かし、テーマソングやポーズなど、もっと番組と結び付けた要素を取り入れてもよいのではないか。
  - ・スキルアップしたらバッジがもらえるなど、児童にとって分かりやすい「できた」(ゴール)があるとよいのではないか。
  - ・同じメニューを繰り返し作り、前と比較したり、味を変えてアレンジしてみたりするなど、「よりおいしくするために」を目標すると、次時へとつながっていくのではないか。
- ※協議シートは、共有フォルダ「研究部」→「学部・学科研究会」→「小学部」→「全校研」にあります。ご覧ください。



### <助言>

#### －授業改善アドバイザー、自立活動アドバイザーより－

- ・小学部段階では、調理は生活科の「キ手伝い・仕事」にあたる。技術を身に付けるという発達の段階ではないため、調理工程の部分的なところを児童が担う、ということでもよいのではないか。
- ・「誰かから依頼されてこのメニューを作る」「誰かに喜んでもらうために作る」など、児童にとっての必要感があると、意欲的に取り組むのではないか。児童の経験とやる気を、どのように使って調理に向かうのかというところを大事にして今後の授業づくりを進めてほしい。
- ・ICFの「活動」(やりたい、できるといった、自分のスキルアップにつながること)と「参加」(自分の役割を担いながら友達と一緒に楽しく活動した、という状態像)という理念は、「こういう状態像を目指してこういう力をつけていこう」という研究の考えと重なるのではないか。授業の中で子ども一人一人のスキルを向上させつつ、そのスキルを使って集団参加を果たす、という状態像を目指し、いろいろな工夫をしていってほしい。

### <助言を受けて>

- ・「クックリン」の要素を生かし、児童が意欲や達成感を得ることができるように、「クックリンバッジ」を用意する。学習の目標を達成するごとにバッジにシールを貼っていく。
- ・次時へつながるように、調理したものをとうもろこしグループのT1に試食してもらい、味の感想や要望をもらう。それを次時への改善点として児童に提示する。

たくさんのご意見ありがとうございました。今後の授業作りに生かしていきます。

### ～今後の予定～

- ・高等部総合サービス科全校授業研究会 7月10日(水)

※小学部全校授業研究会は6月28日(金)に行いました。たくさんのご意見ありがとうございました。研究会の内容については、次号でお知らせします。



